

# 農繁期 レポート

令和2年 7月号

## 栄ファーム

オーナー	栄運輸工業株式会社
水田面積	18.4アール
保証量	玄米 828kg
形態品種	特別栽培コシヒカリ



## 生産者 三上 惇二

例年より雨の日が多くなりました。中干しが干せないような日もあり一部の田んぼは溝を切ったりして排水を良くし、なるべく田んぼが硬くなるようにしました。雨が多いとケタの草も良く伸び止み間に草刈りに勤しんでおります。追肥も行ない、いよいよ穂が出るのを待っております。

### 7月の作業内容と稲の成長

#### 1. 中干し

稲は田植え後からどんどん生長して枝分かれしていきますが、その成長を強制的に止める作業を中干しと言います。土壌へ酸素を供給し、根を健全に保つ役割や土の中の有害ガスを抜く目的などで実施します。



#### 2. 溝切り

全ての田んぼに行う作業ではなく、中干しの際、すぐに水が引いて硬くなる田んぼにはせず、染み出す水があつたり深い田んぼには行うものです。これを行うことで土中の有機物の分解の時にでてるガスを抜くこともできます。



#### 3. 追肥

田植え前に土に混ぜ込んだ肥料を「元肥」といい、穂が出る直前に入れる肥料を「追肥」と言います。量が少なければ収量が減り、多すぎると稲が伸びすぎて倒伏し品質が落ちます。タイミングも非常に重要な判断が求められます。



#### お米の病気(イモチ病)

菌の寄生が原因で生育期間や場所問わず発生し、葉を枯らして大きな被害をもたらすのがイモチ病。低温と多雨による日照不足の年は発生しやすいため注意が必要です。苗作りの種子消毒と窒素肥料の適正量を守ることで予防できます。

